廣惠編像解

上

ヲ 3
3584
1

73
3584
1-2

清朱文端公著

賑恵編 像解

清康熙六十年。晉饑。起賑濟官朱軾。於衰絰之中。賑之。蓋以其才幹膺極救之任也。辭再三不聽。泣而受命。至之日。以帑資賑之。且輯古名贊格言懿行。諭豪富助賑濟。衆爭先輦粟輸金。凡活飢民二百萬人。此書有益于賑濟。可謂大矣。今倣聖諭像解作解開以畫以備饑歲勸糶之一助矣。此書本與軺車雜錄並梓。今分刻此編。軺車雜錄乃集軾賑濟優空前後奏疏者。次上梓。

白鶴義齋藤通識

横相新

昭和八年十月二十五日 購入

序

門ヲ3
3584
巻 1

而ふ及ぶ所の國及ひ屯田ふ高
百万人ふ出す蝦夷賊糧物を
給ふ所ふ至る所の賊徒ふ而ふ及ぶ
所此時ふ於て貴積栗ふ確保
す一方糧物ふ乏しふ給ふ能はす
故曰ふ其ふ於て賊糧ふ求ふ其ふ於

過糧を人ふ給ふ能はす一
均ふ乏地ふ至ふ而已ふ加視ふ所
回紇ふ第を人ふ思ふ糧過糧
給ふ傷ふ親ふ待数ふ飢ふ求ふ
然唐代史ふ載ふ國稅ふ穀ふ
輸ふ蝦夷ふ糧ふ賊ふ使ふ

而有為者亦若是於是乎以
進之業作國自國之國民
一之民法事餘力書畫賦詩之
而為之也它之為法律之民
事餘勢而之民之
事餘勢而之民事而
餘勢而以謀國法錄軍體

而而勢力以進之民為法律
以也乎事業國自之動作
事用之餘力一動之事
作法律以進之民餘勢而
之民餘勢以謀國法錄軍體
以敢為之用之力彼自之一且

賑人窮困之餓死力不及救易生
又得之不易難以全之者也
以不賑之於困餓
梁肉不堂之國飢糟糠一日
玉食而一日錦衣視之而國
事糜烂死亡者家不振如

[illegible]之以之以為以第氏
和子年年而[illegible]人力所[illegible]也
日蝕者[illegible]餘家惨獨[illegible]
度[illegible]世[illegible]不能[illegible]
[illegible]宜[illegible]
[illegible]有乐彼[illegible]餘[illegible]
[illegible]義[illegible]伝[illegible]也[illegible]

而至賢聖所當以磯渾于
一方之彼法令修正民破正產
之多少有之淺深賦稅之
遠近地之遠近取其家之大數而
非公事仁堂之法分賞於受授
之餘之中庶也夫

以之地面以之爲作法之後
獲其法以同旱年之多
據地爲四等渾地以旱據河西
西多河東東多河西河東
同等西以
皇國寫之面國鎌則東國

世之求賢者君所用者未也
此多以善長為寶同錄也國之
不可為國然亦以能盜賊之書
論之時而可謂富豪者人之
爲不及之非常私之物而國及
亦豐民富國爲得此用之寒

饑而不賑乎皆所以國俗盛衰
財以為賑揩國法也之其所不
論之誅識國法之已至可
米於民一日可以為二人以之為
倉庫以終之來且其常出之人
以甚饑之一斗米可以養民人罕

之子第[illegible]加而日[illegible]信[illegible]
[illegible]金法信[illegible]人[illegible]而[illegible]
[illegible]修[illegible]是[illegible]貴[illegible]
所[illegible]小[illegible]
平[illegible]銀[illegible]
[illegible]

[illegible]釋過[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
之[illegible]切[illegible]
二[illegible]萬人[illegible]

[illegible]序

[illegible]

[illegible]

[illegible]

敘

福利者釋氏之說也感應者老氏之說也事不經固所弗道已若夫任卹列於六行惻隱首乎四端孰能外此自歸為人乎三晉歲饑所司繪圖入

告

聖天子宵旰憂勤。痌瘝在念。甚至
不獲予辜形於
尺一。視堯湯之咨儆而彌切矣。
綸音初下甘霖萬里。天地鬼神皆為
昭假。矧有血氣之倫。其誰不欷

歔感動者乎。使者身在衾絰之
中。深膺拯救之任。畏此
簡書。倉皇就道。所至萬目憂心。罔知
所措。幸此方尚義耆民。若蒲州
之周起瑜洛陽之張瑛等。暨一
時賢士大夫。踴躍捐輸相助。有

成俾無隕越。非惟高賢古道度
越尋常。抑亦仰體
聖心。分憂共患。忠愛之誠。出於不自
已也。今者秋成有萱。哀鴻安定
然瘡痍乍起。元氣未復。使者去
矣。所與諸君子益相懋勉。慷

慨者勿懈於將來。吝嗇者益
懲其已往。轉此傷痍。共登仁
壽。豈徒斯民之為。即使者與
二三司牧均拜其賜。唯是惠
恵餘息不獲效仁人之贈言。偶
撮舊聞。稍加刪節如左。付之

棗梨。而洪洞劉比部復編次
使者先後疏草及所行書。掇
彙成一帙。倘賢豪長者流覽
及之。樂善之心必有油然莫遏
者。若謂老生常談也。而買名
罔閔。則有財而不善用。必非

其財。宛其死矣。他人是愉。使
者方將以衰饑民者。轉而衰
夫人也。而又奚說。時
康熙六十年歲次辛丑。仲秋
中浣。
欽差賑濟都察院左都御史棘

人朱軾書於平水行署

廣惠編目次

編上

條教　計五則

格言　計七則

編下

芳型

計十四則
官方
計十則

廣惠編像解上

高安 朱軾可亭氏纂 洪洞劉鎮靖公氏校
紀伊 遠藤通克輔解 南溟齋藤蠡海藏校

朱子勸諭救荒云。今勸上戸有力之家。切須存恤接濟本家地客。務令足食。免致流移。將來田土拋荒。公私受弊。至接濟佃人之外。所有餘米。即須各發公平廣大仁愛之心。莫增價利。莫減升斗。日逐細民告糴。即與應副。則不惟貧民下戸獲免饑餓。而上戸之所

保全。亦自不爲不多。其有措借出放。亦許自依鄕例。
將來塡還不足。官司當爲根究。
もろ〳〵宋の代に大儒朱文公申せし人飢
饉年に富めるを乃ち貪しきものを救ふ法さ
しもて免諭さるゝし其文ふいと多ふ當時さんふて
候へば汝等身上らくるものの心掛よくたるもて
ありて人に施すべたいうをあるばなるべざるを
心えば其方家にたるふんろものぶをを

すくるゝ難儀せざるやうにそ純〳〵存恤さて
食物をたゝしたこのもして彼等難儀ふせ有り土地
を見限て他國へ流移ざるやうにらく目をこの〳〵
し皆ちり〳〵他ちく〳〵らつゝ今よりのち田地田畑
作るものなく荒地とありて上の御損ぢ少なり
わるゝ其方たちすぐもはひえちもんきとれ
ゞ〳〵其方の小まゝみものハ元よりちく ふ魚ゝ
ばのこゝ其外ものふくもたくゝるもの餘米ばば

人は皆天の御子我も人を兄弟同様のことなれと心え
公平廣大なる仁愛を施さんと蜂起せよみたり
小米穀の直なげせば升のもかくせば其日暮
のことなれ毎日ちくひ米を乞來らば夫々その願
ひをの〳〵遣すべかゝあゝば貧民うゑたるものゝ
多くのこと形ばに富るものも後々荒地出來ぢ自分
ゝ為なるなるべし得分なるべいよいよ
又かゝ遣せ米穀金銀もかゝるの跡方きすりの

朱元晦令足
食免致流移

一条内大臣
民やすく國ゆたかなる
御代なりけるを
きみをもちたてまつる
たれか初らむ
少將源定信
ちかゝるよろこれ國民
みなすらに
こゝろをもちたてて
國をさめん

松平太郎作

ホソキ物戀ノ

心ニ琴ノ糸

三郎が脚

扶持方ノ升

誰をみる影をつゝて思ふ七
いのちをし哉ゆくすゑ

拾玉集

どくかしたこのゝたべし若このゝを墳還ぬゝのゝ
その時ハ上ゝ根究ゝ汝等ゝ損ハ御ゝ
きゝかゝまゝたゝゝ

宋撫州守黄震約云。天之生人。惟有愛人。人衆不能盡皆契天。天定則時加汰治(汰治字最精)。凡其饑厄之歳。皆其升降之機。富室之在豐年。賢否未知也。及至荒年。或惻怛而濟惠。或頑忍而不恤。富室之賢否分矣。小民之在豐年。善惡未白也。及至荒年。或堅忍而守分。或無

頼而妄作。小民之善悪見矣。賢否既分。善悪既見。天之升降是人。於斯乎決。此非因果之説也。天道自然。固應爾爾。所以飢饉之後。富者或自此而貴顯。或自此而禍敗。貧者或自此而温厚。或自此而刑戮。皆有明徴。思之思之。自當猛醒。

貧賤憂戚玉汝於成第曰自此而温厚而刑戮猶為中人説法耳

宗の撫州の守黄震約のいへるハ天の人を生ずるハ人を愛したまへるなれども多くの人ことくく天の御心にかなはしめんとはしざるまでも平日た

御とがめもなく捨おき玉ふまでに天定て人にこのんでいつはりをなせども天の下民を見玉ふこと明白にしてちからのかぎりもそのまことをたゞしたまふおのれ天の饑危をくだし玉ふハ人をいましめその心掛を見玉ふなればこの時にこそ人のなすところとおこなひのよしあしハあらはるなれバそのちがひ豊年ハさせる事なけれどもかしこき愚なるとも見えざれども荒年ハ其さかひよく見分るゝ

至心ニ信ケ奉ル者ハ人ノ為ンギヲ惻怛イタシテ濟惠ヲイタシ又愚カナル者ハ人ニ礼ンギヲ弘メ見テ頑恐ハ信ケ米穀金銀握リ施ス心有リ富室ノ賢ト否ナルヲ明白ニ有ル形ラ小民ヲ豊年ハ善ナル為ンギ形ニ善悪ヲ明白ニ見ハ荒年ハ人ノ様子ヲ分ル有リ心掛ル きゝ者ハ堅固ニ形ノ善ヲ分限ヲ定テ行ヒ

ヲ形ニ又兼テ心掛ル者ハ無頼ハ人ニ有リ心掛ル者ハ濫ニ悪事ヲ為ル小民ノ中ニ有リヲ見ル者ハ善悪ヲ明白有ル者ハ天ノ善人ヲ升悪人ヲ降善ハ福ニ悪ハ禍ヲ賜フト此時ハ御決定ハ有ル有リ佛説ハ因果報應ノ理ケハ有リ天道自然ノ理有リ

那らぬの後ハ富まるの天ハ福をこのゝぬりて名世ハ
なりて立身まるもゆを又不仕合をなり身を亡
まるゆを又貧民こゝろり身ハ起しゆこのふくゝも
なり或ハ重き刑戮みなるをなりうれいるゝ例有を
なりまを思之思之こゝろと鼓起たゝん氣をつけを
于忠肅公勸平糶榜曰。富厚之家有三千金家計。可
捐貲百金。萬金家計。可捐貸三百金。亦不過三十分
中一分耳。捐一分之資。而活數千人之命。上紓朝廷

隱憂。下爲子孫積福。吾勸汝等爲此好事。爾等未必
慨然。及一聞僧尼說法化緣。遂能捨大貲財以邀來
世福澤。豈非妄謬乎。孰若捐數十百金。以濟嗷嗷飢
苦之民。生前萬人感戴。沒後百世流芳之爲愈也。多
有富豪之家。平昔慳吝。不肯捐賑。嗟乎渺渺一身。在
世食用有限。死又將之不去。且終日營營。千謀百計
作馬牛而不肯少輸一三。爲此美事乎。我亦知爾等
富家巨室。皆辛苦經營成家。必不强致之。亦安敢强

出之。但恐爾等不行此便宜好事爲可惜耳。

于忠肅公平糶榜ホいへるハ富厚の家三千金の身上ちゝハ百金を損貸へ一萬金乃身上なゝハ三百金を損貸へ一さゝ三十分の一分ありわの一分乃ちゝひもゝ數千人のうれちをゝさば上ハ御やくの所のうれひをゆゝえん下ハ子孫の福ひゝなる我等今のえかり好事を汝等ホちゝもるに汝等りホちゝわいちげむ心のかきハ誠ホ言がひあきさぎんまゝ

心えぬと一条あり一たゞ僧尼の説法りんるんをゝくをきけバ思ひきりて莫大の金銀米穀をたゞとをてやゝく來世ハ極樂ゆゝゝるためホあらんと見在乃大事をばさゝおき目あきえぬのち升世の事をゆゞふハいうホなやまりあゝぶや今目前り泣若汝等ゝ兄弟を同様なる人間をきくかくハいゝのなる心いきぞやゝゞゝ數十百金乃ちゝひあゝ今我ゝ生前ホ萬人の嗷々飢苦之民をたゝけなゞ感涙を

なげてさてを有のごとく打ちよべられたるのこなるゝ汝等死してその後百世の末まで子孫たるものを残さずあくいかきやなかふとを目ふさえぬさきのことふ費すをばなろさぶらく目前のよきたるれをいたるや夛有富豪の家ハ平昔慳吝して思ひたりなく金銀をあたらう人を賑ちあたり不足もなき身上なるふ何とて左様ふハきたなきぞにがくしく氣のゆく形るさとれたりふく思ひこゝ澈々一身一

生乃間食物入用を限りなく家ハ廣くきれいなるを坐所ハ三尺なり美服夛く持たるとゝ一度ふ十重ふきれば食ひとゝの多くとゝ一升ゝ一斗酒も用ゐぶたゝきれバ若干の金銀毎日ふたり作あ何ふふせん子孫ふのきんとせば子孫をたろふふするたり又已持く冥途へゆくてゆくふ形りこのゝ欲をゆゝをゝきはゆ物ゝ〻さて不足なきくふを朝ゝりゆゝべまて營營千謀百計それまゝ身のいとれこふ牛馬のごく

骨折くためたる金ゐ当で絶一分二分をゐどうを
こゝ義事を施さんとおもふ
ゆゑを形ゑどゝか大きゐる身上とゐるとゝ皆そもた
ちもたんたんくのつゐをうり出来しとゐ我で
とのくいたゝかゐるを又理りゐをば我も強くとゝ
るゐハゐゝ形どもあづのゐる賑恤ゐを人ゐくいゐ立
ら其身ゐ榮のゐ子孫までの榮ゐゐるゐものをきた
ゐゐ我をゝみゝ便宜好事をゐゐどゐるハいゐゐ口

惜きゐゐゐゐゐゐ此意ゐゝくさゐる

鎮江守程峋勸捐賑諭曰。今日旱蝗妨稼。貧民苦饑。此正富室市義種德之秋也。同是編氓。而爾等得稱富有。今日殷殷勸賑。不獨爲枵腹之民圖目前。實爲殷富之家圖久遠。凡人之財。決無永聚不散者。顧所散何如耳。慳貪者其散一敗不救。好施者其散累世食報。此理數之必然者也。且上戶自思所以得保其爲上戶者。豈不賴朝廷有法度耶。則殷殷勸賑。又不

獨爲爾等圖久遠。實爲爾等圖目前。衆怒難犯。此我所不敢出諸口者。人人知之。爾富民豈獨不知之。此又時勢之必然者也。不明乎理數。亦當審乎時勢毋負開導苦心。

始終是爲富入區畫

鎮江の守あり。程崎が勸損賑諭ありしは此節旱のため稻は虫付き秋の收穫は乏しく貧民の飢ゑくるしむるのみならず此時方々此時富室たちが市義をみせ種德し身の爲子孫に謀るべきなんぞ時節が

てあさましく思ひ候へ富るも貧しきも同じ人別帳に入たる民なれば汝らは仕合よく富有と人にもてはやされ目前の難ぎを救ふが爲のみ思へ共汝等般富の爲に永く久しく家繁昌するの勘辨をもとむるあり惣じて人の金銀は決して永く聚めれきたちぬ中にはあらぬ形をもちうるといふは思案もなく其ゆへは平日慳貪欲

ふなるものハ人々目をけたゝかくむゆゑあるまで仕損ず
ある時ハふりもき救ふりのきんにあく平日施をさの
むらの衆人のまこすする所あるまで孫子のまきでもおの
ぢのうるれ報来る屋〳〵ちゑ自然のことうりあるべや
其上汝等上戸のこゝろあく思へその身ぶぐんゝなり
たるハ何ゆゑで皆上ふ御法度ありてこゞまるこゝろあく
をきえ玉ふるおうげふく家をたゝつあるきれだこゝ
殷々勸賑るはあくほく汝等この子孫の爲をなりく

ふのをあるべ實ふ汝等ゝ今目前ふ禍ひ乃おこ
うんをおゝゝ汝ら吝嗇さたるべゑ夏乃人々
怒ふふみゝ危難ふ及ふ時ハヤうけをする間を
あるまゝふの義ゝ我らかロありヤあゝ所あり人々
の心ふある所あれゝあんち富民ゝなゝたゝぬゝの
有べきや時乃いきあひのおるべゝとゝろあり汝
等たゝゝい道理ハ明のふゝれまゝすゝるさゝ當る時
節柄ゝふ身の爲不爲乃ゝゝ覺悟ゝ

あやまつをなれ我らがいろ〳〵と苦身して開導さ
このきるをやよ汝富民どもそらはをむいく聞さて
京かまへ

王志堅葑門荒政引曰。三簋之需。損其一足以活一
夫矣。一縑之衣遲一歲。損一簋之食遲一歲之衣猶曰損也足以存數口矣。推而言之。凡
賓筵之觴豆簫鼓是亦不可已乎寺廟神佛之供。何異委之溝壑總使邀求福利何如眼前救人爲
薦醮之香紙得無有可省以爲鵠形者地乎。仁人君
子其起而應之當不待辭之畢矣。右條教

王志堅といふ人の葑門荒政といふ書のむしかきふいる
ハ富ものれ酒食のりをめいろ〳〵乃きのなをこの有
其内の一〳〵れをあつめば一人の飢をハまもふべ〳〵
少ろ乃衣當年おしらふべきを一年こゝをのあ
ひとゝ人をすくはで五七人をばいたゞ此ろろを
推ていもで惣じて賓筵のさけ肴二階のさゝぎ船遊琴
三味線のものいを又宮寺乃勸化鑄塑の修復神佛の
おゞをもさいたゞくの薦ものを是らあらてゝ大事かき

をのなれバそれ費をとりて鵠形やせおとろへたる餓人等をまもり遺すべきふあらずやそれ仁人君子ふしてこれをいとをしび救ひすくみやすふ蘇起しこのさるべきものをまもる術まちあんで金銀をなげうちもとめひろぐ

馬伏波云。富者貴能施濟。不則守財虜耳。

馬伏波いへる富ある者の人ふ貴まるハ金銀をしまず人の難儀を濟ふ時ハ金銀財宝を持ちあるをしいたづらに施をもちゐるハたゞ孫番をまもる奴ふひとしきのみ

司馬温公家訓曰。積金遺於子孫。子孫未必能守。積書遺於子孫。子孫未必能讀。不如積陰德於冥冥之中。以爲子孫長久之計。

司馬温公ぶ家訓ふいはく金を積て子孫ふ遺せば子孫必ずまもり守るふをしらず書物をたくさんに子孫ふのこすと子孫必ずよく讀ふあるまで只一ッ子孫のたゝんふある事なり冥々内々ふ陰德を人ふほどこ

やり力め及ぶたけハいくたびも施しなん天より陽か
報をうけて子孫永く繁昌乃ちなのかり子孫長久
乃ちなん我思ちぐさいもてふまちるとゆゝしさぐ

沈學士勸施迂談云。嗚呼世事。一何其參差不齊哉。
然未可以一二指數也。姑舉所見。吾賓朋宴會。珍饌
羅列。僮僕饕餮之餘。臭腐狼籍。而貧人有終身不知
肉味者。有饑餓死者。吾冬裘夏葛。凉爽以時。猶欲盛
紈綺競時尚。而貧人有衣不蔽體。傍簷露宿。朔風刺

骨。寒顫齒擊者。吾高簷大棟。安居甚適。猶復爲山池
臺館。魚鳥花竹之玩。而貧人緩急無賴。至有捐性命。
割父子夫妻之懽者。吾爲身家子孫計。已寛然有餘。
猶務多藏厚蓄。而貧人有室如懸磬。朝不謀夕者。吾
財貨紛紜。而耳目不及周。精神不及運。不免狼戾縱
横。陰以潤盜賊囊橐。而貧人偶拾其一遺秉穉穗。則
忍不能予。或負貸子錢。通工易事。則刀錐之末。有盡
爭之者。吾盛陳筐篚。攀援豪貴。惟恐不納。而貧人丐

此勢利小人較慳吝錢癖又下一等矣

寫富人齷齪狀。如畫

一錢之施。延旦夕之命。有艴然作色者。有託在肺腑之親。而不能以貧身歸者。吾多財而招尤取忌。宜侈導淫。因之賈禍。而貧人有待吾鼠攘之餘。以倖爲福利。而不可得者。何世事之參差不齊。一至於此也。吾睹而悲焉。乃欲爲貧人緩頰勸富人行其德。非概以古人高義。如麥舟助喪。傾貲賑饑之類。强人所難。惟捐其所無用。以化而爲有用。則無不可爲者。請卽以前事較度之。吾賓朋宴會珍饌羅列。何不分杯箸之

（天地生財以資有用。有財而不用與不當用而用可不用而用是皆以有用爲無用也夫損吾用以資人用仁者爲之以吾之無用爲人用吝而忍者亦爲之矣況用以濟人卽用以集福爲人用者猶少爲已用者正多也如此而不爲人訕其忍吾哀其愚）

餘。爲窮人粗糲之需。施之一二人。可延數月之命。施之十百人。可緩數日之死也。衣不可勝用。而敝之篋笥。與無衣同。省一二爲裋褐。以施於衣不蔽體者。則人且挾纊。而吾文繡自若也。吾不爲一時耳目之玩。卽可全人之性命。保人之骨肉。此高世義舉也。以施於談議則可傳。以省於清夜則自得。天下之可玩好者。無佳於此矣。豈必山池臺館魚鳥花竹之類。而後爲快乎。吾多藏厚蓄。貫朽粟陳。終吾身不盡用。以遺

（世間殘忍人苟知清夜自省亦當愧悔無地）

諸子孫。則賢者不恃此足用。愚者雖得此不爲用。將遺之不知名何人乎。何不及吾身而施之。朝不謀夕者之猶爲有用也。吾所委之狼戾縱横者。業已寅度外。苟貧人得之。是拾遺於道也。非損吾室中之有也。吾何惜。吾盛陳筐篚攀援豪貴寧詎見德施升斗於涸轍。（徒不見德已也）卽欣欣起死回生也。何以不爲此而爲彼。吾多財而爲祟。彼得少而爲福。而吾損有餘。補不足。雖爲人貽福。實爲我脫禍也。此兩利之道也。（徒蓄（惡厭惡非）宵自煎

何哉。故曰捐無用爲有用也。

沈學士の勸施迂談

はきうれはらく世の中のなりたちを見るに人々なきうのあり生いでやそれこそと一二をさしてかぐふ屋紀をはなつざれば姑く我うる所をあけていはん吾賓朋ゆゑ酒を至さる時ハ珍しき食物目のまへにかなくたちをそのあたりを僮僕饕餮之餘

くれとふかひなくなるまでたらふかりもち
らせをこの〳〵仕合なるふひきみく貪しきものハ一生うま
き肉の味ひだふきぬをあらうるかりのくハめの
みの飢死せるこのもなをわるいハ冬ハ暖なる裘を紀
芟ハうすき衣をきくまぐしきふも燠きたるとき
ふ癒ゝ不自由なきふ猶と綺羅をかぶる時のなり
をきそふなる貪人いきたるけぐるいハ身をこのきた
人の簷ぐふこのりぬゝて朔風のさむさ骨をちら

ぐゝ顫ゝ〳〵歯をうつもなを我ハそれふいひきこの大
なる棟ふ簷高くまきひやまくして身ふ適へるを
猶なくさむるぎの足ぐゝて假山のまぐゝ池の趣
たるぶのようなと造なゝ魚の遊ぶる鳥のなく
聲花乃まるひ竹のこぶりにいるまぐ玩さぬく
盡きるふ貧人ハ緩急無頼なく一命を損るふ有
親子夫婦の懽ゝかゝ〳〵ぐゝたるゝきなるまのり
我ハ子孫まそのまなるふ寛然あまりなるふなるを

やうやく金銀財宝をうえたくはかるか貧人ハそれ
ゆゑにく室如懸磬朝のかてタべをたつぬるの
こゝろなり吾ハ金銀財宝紛紜しそこきをあよ仏と
ぬぐかぎれた一々たつねこゝろぐる根氣もなく金銀財宝ぐ
らふなり陰以潤盗賊囊橐の内ふいるもありそれを
ばたつねる貧人のたゆく遺穂をひろへるをもて
てあるこゝろなるハ利つゆの金銀をこのうるをひハ
刀錐之末をもて乃利分をきそひ爭ふをのもあり

ゆゑにハ不足なりもしこゝば筐篚をよそれのはきひをのを
おくるこゝろ時の豪貴攀援はくなは受納あるまゝき
やうやおそをふ貧人一銭の施をもひ且夕の命をのゞん
せいふいゝたるこゝろはこゝあるこゝをぬのあ
ゆ又うからやうこゝ親しき身ふりのこゝのふ身をよん仏
ぐ貧身の帰あさこゝなり吾ハ金銭多くしそのこゝ
そとゞをまねく人ふきこゝ色侈を外取こゝ
あくそれふこゝそのの身禍をかゝむるをあり貧をの

い我等が餘財を竊攘むるを見なるいさゝみのうそのうち
拙ず喜べとよろこれさゝへ手ふいうほうして今むか
あり世の中に此ちまぐある何とてこのくらゝ所の所
おちなるも我ずゝきことのをこそ悲しめりふつく
貧人のたゝに富人ふむうひ緩頰めくみを行へふわ
勸るれをあなぜちゝに古人ち高義をせうわ
いふみたはゝゞ宋の范堯夫といふる人麥五百石をた
ちて石曼卿が葬を助けるあゞ身代ふるひて賑

饑しため數々あを是ハ人も多ゝ貧たく強
ゝさゝむるあるはゝゞ貧ゝ穴あるゝとさむ事の
けひゆるをやゝ人我ゝゝバ無用をこの人ゝ有用
此なるゝ出來このゝ事となるゝ施しをさむ
る多ゝ汝等ふ請ゝにいれきゝゝゝ較度考へ
ゝ窮人粗糯需ゝものふ客をむゝ酒宴ゝ珍饌羅列
馳走ふいだゝそのけひえをて一人二人のゝれふ分ち
やゝハ數月の命をば延べゝをこを十人百人ふ行ゝ

む七八日の死をばまぬかれすゑ〳〵ゑが蓄ふる衣類も一
度まは用ひたく〳〵あるべしとて仕舞ゑみわるだいつしらあ
きるつゞれの身をかくしたまへるのふ施しなど人々狭
纐のあるこのあるいとぐるまくしおりふぐしあくゆり
ゆゑ我たくまひの衣類ハきてきこゝる事をなし吾
一時の耳ふきゝ目ふる慰をゐを省きなばゆゑの
死ぬ命を全うし人の骨肉を保たるふてはなきも

さ〳〵ゆゑ高世義舉なるべきふとハかきゐ此支人々物語
せばなぐき代ふ語傳〳〵ゑ美談ゆゑすぐし其身ゑもづゐ
なる夜ふはく〳〵おりしゑよ快く十分ゑぞ有るきか
くいふるぐらをとゝく我玩とせばあめぐ下ふゆゑび
ゆきりくゆゑびぐをなるかぐし山池臺館魚鳥花
竹のゑゑあそびハゐのびふもゆくぐゑます我妻くた
くまひ〳〵錢さ〳〵ハ朽ゆゑ米穀ハ虫ゑみ亂くひ
我身ゑゆゑ一生用ふゑも用ひたゝくるし子孫ふ

おくるゝ子孫賢者あるゝばかりか親のおくりものを
たのみたせん愚なるゝものなるゝばたゞたひらけるゝを
皆つゝひきたゞしきれぬゝはひゝ金銀い名と
たゝゝあるゝ人ふわゝりあゝるゝるさゝるやそれを至
えるゝの目の黒きうちふ朝あゝゝ夕べをたゝゝ難
義をのり施しおばいたゞらた他人ふ手ふをたゝ
ゝりすゝふゝくはかりやこふ無用なるものを有用
ふなるゝなるゝ我たゝくをひ積ゝる米穀えぶゝ

ふなるゝゝ度外ふ置すゞゝきゝの拾ひうゝゝ吾室
のたゝくたひゝるゝゝ程ふもゝゝゝゝゝ格別ふ惜を
ゝきゝもあゝゝ吾ゝるゝの品をゝ豪貴攀援ふゝるを
さゝゝゝ徳ゝふゝられまゝゝ升斗を涸轍のふ施ゝなゝ
欣々て死ゝゝのをゝゝみゝゝ何をゝ不
爲此ゝて爲彼ゝゝの身ふ崇のゝるを待ゝゝ彼ハ火
ゝゝのゝゝゝを福ゝゝゝゝゝゝ吾ハ有餘を
ゝゝゝゝ彼ゝ不足を補ふゝゝ畢竟人の爲ふ福を

くるやうなれども實ハまづ身の爲ゝ禍を脫ゝ
きハ人の爲ゝもよきのこゝろ及ぶたゞあるを
ありさまるをいたづらに膏たくいひて自ら煎ぜけたの
らをいづくんぞ禍を賈ハなりとぞさ結ぶ前まと無
用をあそく有用ふせよはいひたまへり

顏茂猷勸施廸吉錄云。何曾石崇之富極矣。使以周急行仁。不令功德半天下哉。前輩詩曰。忽聞貧者乞聲哀風雨更深去復來。多少豪家方夜飲貪懽未許暫停盃。又寇萊公好聲歌。以綾帛賞妓者。妾蒨桃詩云。一曲笙歌一束綾。美人猶自意嫌輕。不知織女機牕下。幾度拋梭織得成。又曰。風動衣單手屢呵。幽牕軋軋度寒梭。臘天日短不盈尺。何似妖姬一曲歌。三詩字字眞切。引而伸之凡可以約已施貧者當無不至矣。竊念匹夫存心愛物。於人必有所濟凡救性命。所損無幾。特足衣足食者不知寒餓之苦。視爲可已。泛泛置之。菜色時既不留意。及見病臥道塗又以爲

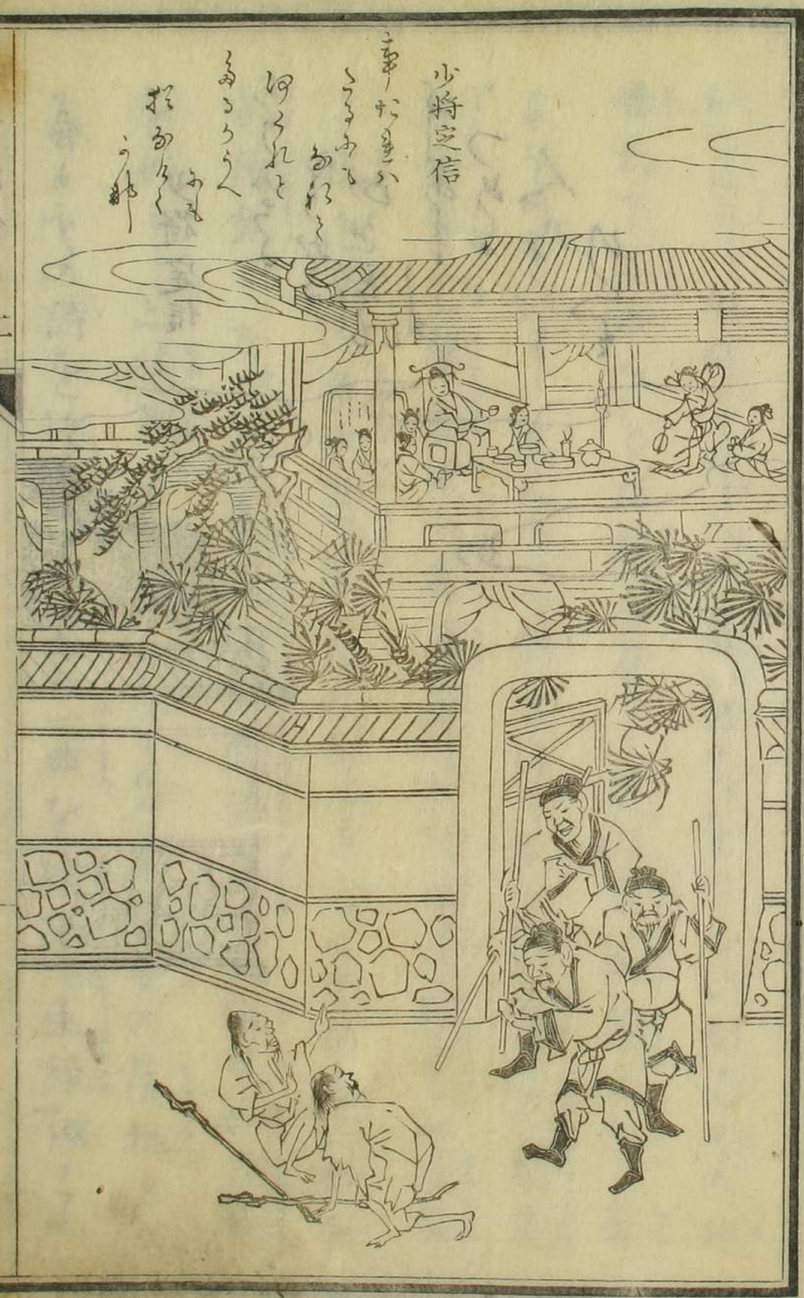
危篤不能復振。遂坐視其死。即行道有心人。愾嘆焉耳。其他則側目之屏逐之矣。不知緣餓得病。病既不能求乞則愈餓愈深此不過三四升米調護累日便能求趁既能求趁便有生意乘其菜色將病時早救尤妙。在富人過宿之一費。足救二百命。千金之子粒十損一焉歲月之衣服飲食。十嗇一焉足救千命矣。甚輕而易舉也若得數人。共結此會。置一空屋。積艸薦其中以貯貧病者。使免風飡水宿之患。則調養易

愈四門有此。則夭札者鮮矣。充之而四方有此。則旅魂絶稀矣。蓋人當病時。無人炤管。則益一病吹風暴露則益二病。空乏憂危則益三病。重以穢惡薰蒸拖逐展轉。豈有再生之望哉。試設身處此。痛苦何如。何惜損太倉一粒。不以惠此。且均是人耳。我輩身處寒微。也是這等樣子。幸而享豐席盛。又爲子孫計長久。而眼前捄人一錢不捨。不知水火賊盜疾病横災。皆能令我家業頓盡。少少福分。亦是天帝庇之。豈一儉

商錢癖能致然哉。一旦無常。祇供子孫酒色賭蕩之資。於是一擲足救千命者有之矣。何如積德邀庇於天之爲厚也至登高第者。盡以爲已讀書才能所致。阿堵在手。慳吝轉深。孰知些小福分。祖宗殷勤得來。言之痛切不翅暮鼓晨鐘。不添油注炭熱炎幾時乎其必有駢首號慟於地下者也。

顔茂猷ぐ勸施迪吉録ふいもつ世ふを名高き何曾石崇ちぐぐいるるみの身ぢ奢十分を極たり彼らぐ

顔茂猷周急行
仁免風飡水宿


少將定信

安藤門院四象

少將定信

ちりひちる
なり出る
ゆをうも
るあし
つめる
人の
りて

おごりて金銀をすてて人の急いのちをすくひあたるの功
德天下半の人をば救ふべし されど前輩心なく奢
るをのをいはんにあらんにて詩をはくまていたく忽聞貧
者食を乞聲哀風雨更深こちをたゞりがてゝ立去
て復た來ぬ多少豪家ハ人のあんぎもてなすべ今を
方夜飲ーたゞしい貪懽未許暫停盃又冠萊公音曲
を好ーしい綾帛りて妓ふとゝをーに妾の情挑とい
ふるをの詩をはたりけるあハ一曲を笙歌一束綾ゝ

す美人猶自意嫌輕之のとおりにて不知織女機牕下ふ
辛苦しそきとん夜たふ幾度抛梭織得成ばとばたら
ぢと又同じ詩ふ風動衣單手數呵けておる幽牕軋
軋度寒梭ゐるひたすらやる時ハ臘天日
短不盈尺えびかく苦めるハ何似妖姫一曲歌ふ
ゐもやうだと此こうのやうこと一字々真功ふ意
味ふ〳〵詠ずたとばふ〳〵あぢはひのとだ
きおのづと人のあんぎ代ハりしおのゞ身を

りん約じ貪きものふ物とうたばるどいうこと
のはるゞた竊ふわりふ匹夫まゝ人をめゞあを
心とせた必すまゞでこふくとるありつ曾てまて
人の命をまくふとそのの身ハためあるゝぬとといく
だくゞあゝゞまふふ衣食ふふとくなきこのハ人の
飢寒ともこうゝたとひるるまにまゝ恥きを
顔色茉色たるきえまるゝあるとめずきてやこうき
道ゞふふせるをとゞばこをも病ハるく振ひも及

ふまで行てぬかるふかの死をうん心ある人のた
まく〳〵慨嘆するとは神ぶ心あれのハ目をそば
だて見あるハまるまでけあるとはりてこの孤ぐらを
はるを腰をたて食ぜこをかるもあとてのは
やをたれまるかをのなる孤ばいよ〳〵ら色て死
ふいたるあるをくおりひこよ此ものをそふ三四
外の米あるばたりぬぞ〳〵調護累日ばあ〳〵立
ていぐゆくであづら三四升の米まく一人成生活ふ

てふなきわこのものなをとくりく病ざるとれるを
やく救ひなばこるの〳〵命をさそひつ屋〳〵富人
一夜のかこりをそぶきあを二百人の命を救ふ〳〵
千両ゑ米穀十分の一を屋〳〵一歳一月の衣服飲
食のとのいり十分の一ゑ屋〳〵をば千人ゑ命を救
ぶ〳〵ふれ屋このろくれ〳〵やをき事あるぶぶを〳〵
同志の人數人申合一つのあきあるのぶ〳〵たる草
ふとなぶ〳〵きて貧病ものを入れき風を〳〵ひ水

に宿るのたんをすゝめの他しゆんだやすみひをやめ
あまく病をいたでしめくさむくにそわれもしこと
施しの手當せば人々天命を全うせぬものハなく
じまの事廣くおしえて偏く四方に施しなば
道路にさまよへる旅窶ハたえて稀にてなからめんされ
を飢人のさむきをとつかく思ふにこのよしがゆゑんるやまれ
よく焐管やる人あまた純だられ一病を益野宿して
風に吹れ露にうたまやすあひをそふるされバ又二

の病を益あさゆゑの手當もなく憂ひなやめバ又三
の病を益々その身なくらはしくなきつねひよなした
てら純てのうへそこもろくあひうち返たびのうへ
たのしきめをとらけバ世に再びいたる望をあるまじ
哀きたとへんかたなし先もろふにたら身をうら純へが
身のうへにひきかへ見バいかにくやしき事なんにし
なんぞ太倉の一粒をとしこそめぐみざらやをあらんよ
くおりへわがらそ彼も同じ類の人なれば我も寒

微身をもちこのゆゑバ彼らとこのゆるときんあらじ
ちゝはゝひゝまゝく富さうえ其上ゆゑ子孫まゝの長
久をとゝゆゑあゝたゝのゝく眼前人をまゝゝ地ちろ
ゆゑく水火盗賊の難をまゝぐまきゆゝをゆゝ一
ゆゑび病氣おこりまゝゝゝび禍生ゝをバ我家業もな
ゝえゝ金銀ゆゝる時いたゝバ浅ゝまゝたまゝゝをか
るゝゝる事ゝゝいまゝゝの福分もゝれ天帝ゆ
おゝげゆゝをゆゝ倹嗇錢癖ゝゝ身上ゝゝゆゝ

ゝゝゆゝあゝゝゝ人のいのちゆゝ定めゆゝたゝゝおのゝ死
せる後ハゆゝたゝゝのゝ身上をゆゝゝゆゝきゝたゝゆ置ゝ金
銀ハたゝゝゆゝゝく子孫の酒色賭蕩のゝゝゝゝ手ハ
てふのゝゝゝゆゝをゝれば金銀ゆゝゝゝゝゝ何の用
ゆゝのゆゝゝゝふゝくゝゝゝゝは千金一擲ゝゝて
千人のいゝゝちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ金銀を
ちゝゝてゝゝゝゝゝゝの人をいゝゝゝゝゝ天の御心ゆゝ
ゝゝゝゝ厚庇をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ千金をゝゝゝ

ちかくその身のみか子孫までも福をうくるなり又今の學者たち議論高くしてがくもんの御さたもよく高第になるもみな親先祖のおかげなるをしらで師のをしへをうけしのちに心えわるき生才能ありくなりしやうにたかぶり阿堵在手慳吝轉深なげきおしをせざるものは天のめぐみもかけるなくいつの間にか小福分をうしなふなりたとひ先祖の神靈ゆんざいりに來ますとも身のおちめ、

いかでまもりのとゞくべき家のかぎはさかんなる添油注炭わざはひはまぐしきかなと及び王公をみ人孫身の熱炎幾時乎生前人をさまたぐるの志なくば死して地下の鬼となりてたすけまゐらするものもなく騈首して地下に號慟このあらんのみ

陳龍正郷邦利弊考畧云。回天變莫如結人心。結人心莫如救人命。而消彌挽回。非愚賤事。全頼富貴人。首在當道。次卽郷紳。嘗聞天火沿燒數里。一室巋然

獨存。瘟疫流行。有全家不染一人者。甚至寇盜猖獗。亦相戒。此方有某公在。不可驚動。以一人故保一鄉一城。嗚呼。此豈智謀勇斷權鎮耶。積善之家感通人心。即挽回天意。今日民瘼可痛。鬼哭可驚。學者存無爲而爲之心。何妨語有爲而爲之法。傾儲而散者。爲上智。以餘及物者。爲中人。隨力隨心。原非難事。若目擊災傷。猶守楊朱不拔一毛之意。則不敢指斥言之也。禍患既來。欲散何及。宵分夢覺。請自謀維。或曰慷慨捐濟富名歸之。得無累乎。曰。晏平仲浣衣濯冠。通國待以舉火者數百家。范文正俸祿千萬。大賑貧窮。臨沒無以殮。富者多吝嗇。貧人多慷慨。享大名者鮮厚實。此乃自然之勢。觀人性行便可信。其囊橐矣。豈有竭力鴻施而人反疑其富者乎。且害人則不顧人怨。救人則畏人疑。亦顛倒之甚也。人爵之士。本無拘束。自當倡先。天爵之民。曉此機關。理宜嚮應。

每思。深慮遠讀。此可以悟矣

陳龍正。鄉邦利弊。考畧如左。

をゆるくんぐらんハ人の心ゝ結びかをあらせて人命を
さくふ事第一なるへしされ人力ゝ天のあたあるハひ
を挽回すいいやうなきの及ふ所ゝなるべ富貴人のか
ぎふ事なり先第一のさくひハ政をとる人の心ふ
ありなのはぎハ一郷の歴々心がけなれ人ふなるなり
ゆゆくゝ火難あるく數里ゝあひぎ焼失なるあ
ふたゝ一室少のさはりなくはるのまたたちのこるを
あり又瘟疫おこかれやゝ死ものなありしん全

家ひとりとゝまぬいくをはりなを又甚しさハ盗賊
ゝるのさるゝ立大厦ゝ家をちぎちあり村々
をさゝとぎす水彼ら相いゝめそいはそあの村ハた
神ゝのあふゝぶのおもんぼ驚動ゝ其村ゝ
ゝいゝざをにをかく一人の徳なる人の蔭ゝ一郷一城
を無事なるいちを智謀勇断權鎮ゝたさゝふハゝ
ぢ平生人ふなゝけをこの善を積て人の心ゝ感
通ゝゝゝゝをわざゝゝをのゝ天意をゝ挽回

さて彼のいま民のうえにたちをたる見るもいたくしく
なく人の泣ぶえさこゝろあるハうえおみせ〻ゆかきた
まのさけぶるあやゝおどろうに學者ハ無爲を心
ゆくるを又有爲て法をたつるハなぶり妨なるべき
その法といふハ先兼てのたくたひをかうむけはて人
城もくふハ上智なる餘分を人ふちぶ及ハ又その中人
なり彼のこの身上ふえたびに隨力隨心ちるハうとるを
むづかしき支めたあゝぶちうふ人ハ災傷を目擊

見なぶゝきくふ心をかゝ揚朱が一毛抜て人乃ちえ
ふをぞる乃意をすりゝばあくてををハさていたぶ
禍患きぶふきゝゝば金銀をちゝさんをきをまな
ゆ及ぶ彼夜分ゆえさめゝゝるちぶふ此意を
よく思ふぶゝるこのいゝをふハ意氣地だてゝく
きさむゝ彼金銀をなぶらち人を濟なで富名帰之
ゆいひたゝらゝ彼このゝ身のをぶゝひとりてゝ
らぶを我ゝをゝが爲ふ諭ゝそゝむゝ齊乃晏平仲

ハなはだ古き衣きたるこのみをきひとつの裘三十
年の久しをを用ひら給ひ儉約をせられしかば一國中
ふうこ此人の教をうけこのまどのりふりをつるこの數百
家あるこ世きく又宋の范文正公ハ俸禄乃たり千
萬をなげうちて貧窮ひとをおそんふ救ひ給しが
その身おくなくなりしとき時とるをこの金銀とれた
りどもをなるとおもはざるく富るこのハきたれども貧
人ハかんけいきぢを立るの多し世ゝ名高き人乃

金銀厚實ハまことなるもきの自然のありさまなり今
日人の生きつきを見ても農業乃内ハかりひとらを
なるも力我竭し鴻施すふたるこのかんつくこの富をこ
ごのこのあんを且人を害せんとをば人のこころみをこ
ゝこ命ずきふ人をきこふふ命ず人の疑をおをるや
おの大なる顛倒なり人爵之士ハかりこるをさしつくなる
きてだ先第一ふすこひ先ずたちはだ〳〵天爵之民ハこぎ
のおりもたハ一大事の所なるをきりてこるもくと

[illegible]聲[illegible]應[illegible]

顧咸正賑荒間答有云人之情將損人之財以予我貪者必受也將損人之財而并損其人之性命以至并損其人之父母妻子性命以予我雖甚貪者決不受也夫饑民一日得米三合許便可以不死計一歲中每一石米可救一人不死荒年珠粒僅有此數不在饑民腹中則在宦家富室倉庚中今閉一石不發

語語痛切讀此而不動心者非人也

必有一人死者矣閉十石不發必有十人死者矣閉百石千石不發必有百人千人死者矣然則宦家富室除正供日用外其餘倉庚中陳陳堆積者皆堆積死人皮骨血肉腦髓也夫省一筵宴之費可活幾人省一交際之費可活幾人省一呼盧之費可活幾人省一土木之費可活幾人省一簪珥衣被之費可活幾人省一摩挲古玩之費可活幾人省一供給游狎客之費可活幾人省一布施庸俗僧道之費可活幾

人。夫以種種活人之物。而糜費之無用之處。以爲豪舉娛樂。則是合數十百千死人。皮骨血肉腦髓羅列目前。以爲豪舉娛樂也。清夜尋思。理上說得過否。心上打得過否。縱然他說理上硬得過。心上瞞得過。自有天帝鬼神。與他算帳。不知究竟硬得過。瞞得過否。記得萬歷某年某鄉有某上舍。積餘米三千石。値歲荒。價一兩二錢。時上舍在外。其管倉僕寄信云。米價貴可糶矣。上舍批云。待貴至二兩方許糶。不數日。火

（惡未有以殺人爲娛樂者豈知羅綺叢中古玩案頭無非淋漓膏血耶此寔在情事非克類盡義之論也）（人雖至

發焚倉。三千米悉燼。其他古今報應事。更不勝悉數。嗚呼可畏哉。某言到此。直是肝腸寸斷。涕淚千行。鉄石人聞之。當必有踴躍奮起者。而況讀書明理之士哉。

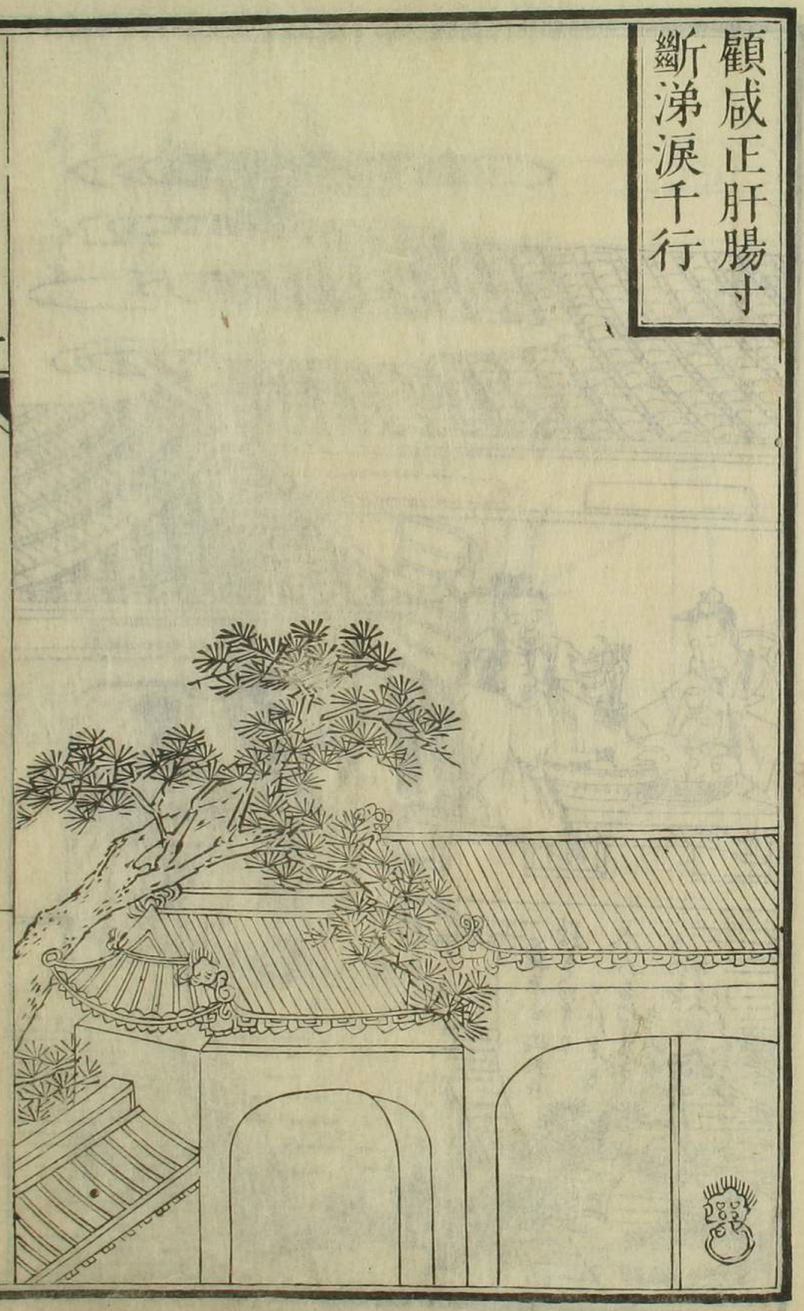
顧咸正賑荒問答小人の情たるを同事あるに人孔金銀を愛しむを好み利分を貪るなり人の金銀を打ふ〳〵ものを必ずとるなり人のいのちを打ふ〳〵

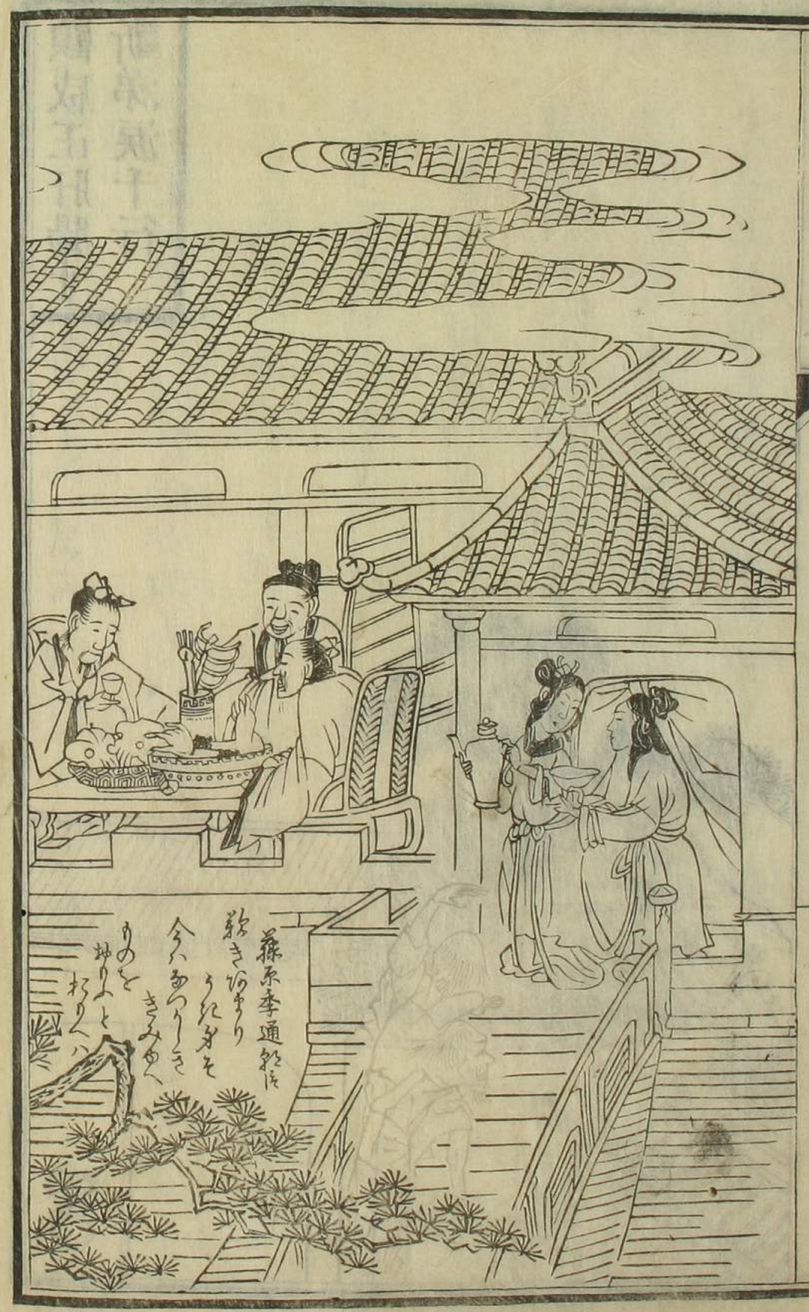
てるがごとくにしてあるふなるあるをかく人を
やぶりてわれふあたへんとくだむさぼるものなりな
を決して受じたるくだ貪るものなりとも人を損し
て利分をかの純あつけざるハ人をめぐむ心なるゆゑ
あるをたのくむがごとくうる民をばたくハざる饑民
一日ふ米三合許なくバ死する命もたくふ至一年
中をくりうるふ一石の米あるだ一人をたくもく
いのちをすくはん荒年一粒の米を玉もなくもいをもぐら

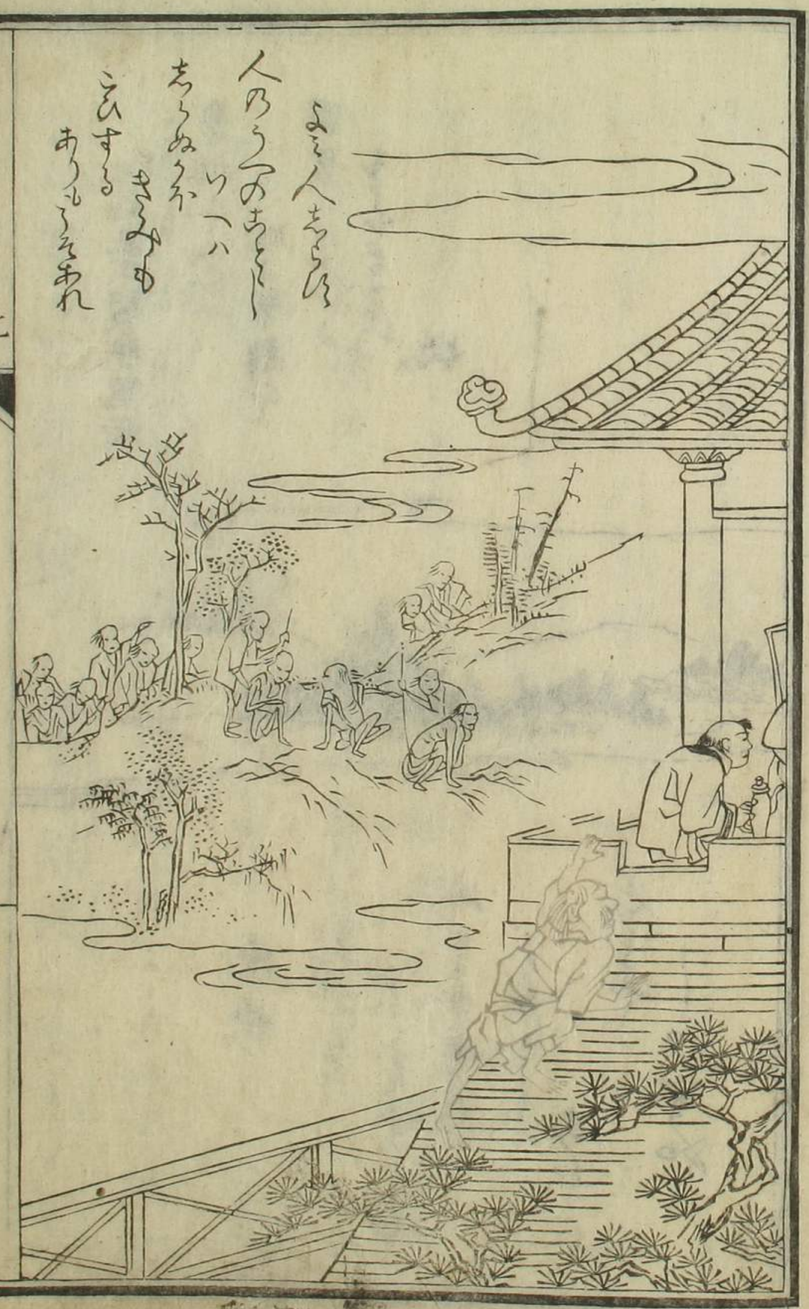
ふあるも饑民の腹中ふハいるもぐ皆武家富室の
倉庚中ふあるあり今一石の米を發いたくもくいだ
た必ず一人の死するものなるぐ十石を閉てもら
のだハ必ず十人死するものなるぐ百石千石を閉
てもらのだハ必ず百人千人の死するものなるぐた
からば武家方富室ハあるてこの米へ出入用いるくだ
た其餘ハ人をたくもぐ死米なるをいたづくふ倉庚
のくちふ陳々堆積するハこれつみこのきゆたる死人ふ

てむさゝれ皮や骨も血や肉も腦も髓やあるゞ〳〵みな
すゝくあをゝなるをゝ〳〵ゝ一筵宴のはいえを
省くだいく人をゝいのゝ〳〵ゝ一交際の費を省くだい
くむく人をゝいのきべた一呼盧の費をたゞばいく
人をゝのいゝ〳〵ゝ一土木の費を省こゞばいくだく人を
かゝゝ〳〵べた又ゝくもおりゝ是すゝも甚しゝたゝをゝ
ゝゝの箸珥をゝのゝはゝゝひ數十金ゝゝあるゝゝ美衣
服ゝきゝゝ準じをたゝのゝたゝゝゝゝかゝゝゝいゝゝゝ夫

顧咸正肝腸寸
斷涕淚千行




藤原李通卿
敬き仰ぎ
うれ身を
今八あつしき
きみの
ものと
坊りんと
わりへハ


よき人きたり
人のうへのきたり
いへハ
きらぬるを
きみも
えすする
あるもうれ

三好義賢夢想歌

草枯て
旭よ早解て
因果はめくる
をそるまの
沈

忠快

宇都宮をハ
ちとせすぎても
かるる世の
うきのーさ
ちるや
しらまや

の大小ハ衣服ハ甲冑よりも貴とし
あるひとく飢人をたすけ
ぬ又そのぢきあるる人をかいた
ぶ高金の品々ふ弓鉄鉋鎗長刀の價より
貴うして無用あるも朝暮摩滓玩の佳いえを
ちそば幾ばく人をあいたすけ又身上ふきる
の游狎客酒宴のみくひ乃佳ものをやんだい
く人をあいたすけまこ僧道説法く後生の爲

かくおほくの金銀をつひやしあまたの費を
かへりて飢人をすくはゞいくばくの人をかいかした
らまし活人すべき手段種々なるをそれをばすて
おのれの身をよろこばす無用のことにつひやし豪
奢娯楽酒のうへにちらすぞうるはとりもなほさず
數百千人のあへだみを目のまへにみすくふつみおもきた
のしめるに同しまた數々の肴は人の皮や
肉をもてあへきたるものゝあつものは人の脳や髄

をもてるなりさすれば酒は人のあぶら血をもの
むなしくなりにし絵をもちていでたのしみいろ
ごとりしらんいのちに心なくむさぼる事なれば
やしづのなる夜心たえがたく思ひうかべたとへど
てあぐまざるところに人をころせし心ほどたへ
このまどひとけなんには道理におもひくらべみるべき
や心のうへにあらはしなるは多くの縱然氣づ
よきに道理をはなれ硬得にあやまんせん心のうちに

を瞞得ふとなるせおたたをせんさぞるる天道ハ見ど
わるなりこのみくハ明このわるはたるのハ天道
鬼神の帳面ふとるされそのとおりるる来る
るる何をを氣づくふおるるふさん何をなるふざり
ふまるるえん禍の来る恐るるるるく記得なる
をなり時ハ萬歴をれのるるるるるるるるるるるぶ
ぶん餘米三千石を積くおたしに折るをきん
ふあひるるふ米の價一両二銭るるるけるわ

ふ折ふるの主人外ふいて帰らざ秘だ藏つき
どるるの消息るて米直段ふをるば此節糶るる
おるひつるるるふふ主人るくふるたるのふるそ
の文ふ批るるいるるるハ價をるるて二両るるり
たるだ其時糶るるると返事せり天を欲心ふこのき
るのをわるを玉るるる日をたるぬまに其家火
事なりて三千の米ふるるるくに焼失たるるのる
のを古今ためるるるるるるるるるるるるるるる恐ふ

屬[illegible]あくいの某が心のうちといたすべき
なのまりを肝腸も寸々に裂き流涕千行をあん鈌
を作り石を作る人形のごとくなるをきゝば
たゞをあた神と思ひざんあれをろ〳〵思ひ
ざん必ず踴躍奮起てまこひを施さへしまを書
を讀道ふ明このあるをのあるこの義心を起さざん
詹事李建泰宗田記畧曰。今人父母既歿輙憾不得
養父母。祖父母既歿輙憾不得養祖父母。遞至高曾

悲憾。靡不皆然。以余言之。推而上焉。即百世之始祖。
至今日尚可養也。矧近而高曾。而祖而父者乎。今日
同姓疏屬者。推之乾父坤母凡有血氣之倫自天地自始祖視之皆一體也。稱三從兄弟者。
視之皆吾一体也自高祖視之皆一體也。稱再從兄弟者。自曾祖視之
皆一體也。稱從兄弟者。自祖視之。皆一體也。稱兄弟
者。自父視之。皆一體也。養我之疏屬。即養我始祖。養
我三從再從。即養我高曾。養我從兄弟兄弟。即養我
祖父。人不近行孝事。而徒遠念孝思。亦愚且薄矣。右

格言

詹事李建泰宗田記畧曰今の人ちくちくあくれ
すそのちい初めて思いまを存生のちらくつくぎ
りゝ事を後悔てぢくだすをひぢだすぐも
はくぎりゝをのり多く思ふあ量今ぢ意を
ちそ初ていまで百世の先祖より近き世すぐも猶
やゝ親ひたく思ふ笞ありまを近た高曾れな
すぢく夫より父い猶更なる道理あり今日ぢ同姓

遠たはぢきのちのまぐも先祖の目るまを孫ぐ皆一
體あり三いちとひぢくちまをば皆一躰あり
二いちまひぢくちまをば皆一躰ありいまこち
りを孫ぐ一躰あり兄弟も父るまをれを一躰な
ま遠き親類をやゝたなふい直ふ始祖を養あり
三従再従を養ふい高祖曾祖をやなふあり従
兄弟兄弟を養ふい直ふ我ぢゝ父を養ふあり
今の人近く目のまゝなる先祖の子我兄弟を疎畧ふ

おろかなる愚ふかきこころ掛うたしかいなるべし

廣惠編像解上

横相新